資料５

令和２年度　各地域包括支援センターの事業報告

令和　2　年度［　　あさくさ　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　社会福祉法人　台東区社会福祉事業団　】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	民生委員の改選に伴い、新たに顔の見える関係づくりや協力関係を築いていく
②	総合相談支援業務	防災ニーズの高まりがある中で、活用できる体制や資源の把握が出来ていない
③	総合相談支援業務	高齢者の実態把握と早期対応

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	民生委員との関係構築	計画	１回	新たに民生委員ごとの包括職員の担当を見直し、より相談しやすい体制を作っていく。また、新たな民生委員との連絡会を開催する。
		報告	１回 書面開催	各民生委員に包括職員の担当者を決め、相談等があった際には連携に努めた。連絡会は新型コロナウイルス感染症の影響により書面で開催し、情報誌を作成するなど情報提供を行なった。
②	災害時に活用できる地域連携の構築	計画	—	各町会等の防災に対する取り組みや活用できる資源を把握し、関係者との連携が図れるように努める。
		報告	—	馬道地区の全町会に対し、「防災対策についてのアンケート」を実施し、各町会の防災に関する活動状況を伺った。アンケート結果を情報誌に掲載し、周知を図った。
③	実態把握と見守り訪問の計画的な実施	計画	—	ひとり暮らし等高齢者の見守り活動を強化し、小さな変化を見逃さずに適切な支援につなげていく。
		報告	—	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、訪問での見守りは減少したが、電話やファックス、メール、手紙の投函などの手段を使って、利用者とのコンタクトを図り、見守り活動を実施した。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○				○		○		8	○	○
2	常	40	○			○			○		7	○	○
3	常	40	○				○	○			4	○	○
4	常	40			○		○				2	○	○
5	常	40	○				○	○	○		12	○	○
6	常	40		○	○						3	○	○
7	常	40	○								0	○	○
8	非	28					○			○	1		○

その他の資格・・・８　柔道整復師

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○				○		○		9	○	○
2	常	40	○			○			○		8	○	○
3	常	40	○				○	○			5	○	○
4	常	40			○		○				3	○	○
5	常	40	○				○	○	○		13	○	○
6	常	40		○	○						4	○	○
7	常	40	○								1	○	○
8	非	28					○			○	2		○

その他の資格・・・８　柔道整復師

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　7,662人　（令和2年1月1日時点）　　あさくさ 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月） 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
地域ケア個別会議 主催	計画	個別課題の解決にとどまらず、地域課題につながる可能性のある問題を発見する会議であることを意識して取り組む。計画回数にとらわれず必要に応じて開催していく。	2回	←→ ① ←→ ② 準備・開催 モニタリング・評価 ①
	報告	2ケースとも独居の認知症高齢者で、金銭管理等に問題を抱えており、成年後見制度に繋がるまでの支援について検討した。医師や弁護士等の参加もあり、課題への具体的な支援方法について検討し、支援に繋げた。	2回	準備・開催 ① ② ① モニタリング・評価 ②
見守りネットワーク地区連絡会 主催	計画	各種協力機関・事業所、相談協力員等と情報を共有し、顔の見える関係を継続していく。事例検討では参加者の意見を聞き、地域課題につながるものを発見できるよう運営していく。	2回 参加 60人 （延べ）	←→ ① ←→ ② 準備・開催 報告 ① ②
	報告	新型コロナウイルス感染症の影響により、第1回は開催中止。第2回は書面開催として情報誌を作成し、各関係機関に配布。情報誌は、新任の民生委員の方が活動する際に役立つ内容とし、介護保険や福祉サービス（見守り中心）を掲載した。	1回 （92人）	① 書面開催
街づくり懇談会 共催	計画	街づくりに繋がることを意識し、住民及び関連機関から地域の実情を知り、共通の課題等について意見交換や協議できる懇談会を開催する。	2回 参加 100人 （延べ）	←→ ① ←→ ② 準備・開催
	報告	新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会の開催は見送った。昨年度、発表を予定していた防災について、日本堤消防署、危機・災害対策課にも協力を得て作成した情報誌を関係機関に配布した。	1回 情報誌 配布 122部	① 情報誌配付
広報誌「笑顔の浅草」の発行 主催	計画	関係機関や高齢者の来所される場、民生委員等に配付し、情報提供や地域包括センターの周知に努める。	2回 1,000 部	←→ ① ←→ ② ① ②
	報告	熱中症対策、詐欺の注意喚起、感染予防対策、自粛中にできる介護予防などコロナ禍で高齢者が抱える問題をテーマとし、配布をおこなった。	2回 1,122 部	① ②

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　10ヵ所　　介護支援専門員数　　35人　（令和2年1月1日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月） 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
ケアマネジャーの集い 主催・共催	計画	事例検討会・情報交換会・勉強会等を実施し、地域のケアマネジャーの資質向上を図る。	5回	←→ ① ←→ ② ←→ ③ 準備・開催 7月分包括合同 ←→ ④ ←→ ⑤
	報告	新型コロナウイルスの影響によりあさくさ地区のケアマネジャーの集いを見送った。7包括合同のケアマネジャーの集いは新型コロナウイルスに関する事前アンケートを行い、その結果をフィードバックすることで情報共有・情報交換とした。	1回 （89人）	① ① アンケート実施　報告
	計画			
	報告			

＜認知症総合支援事業＞

あさくさ 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月） 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
認知症カフェ（喫茶YOU） 共催	計画	【台東病院・みのわ地域包括支援センター】 地域のボランティアの方々とも連携し、「回想法」や「介護予防体操」・「音楽会」等を取り入れ開催する。あわせて、個別相談コーナーを設け対応する。	12回 240人 （延べ）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ 開催準備、打ち合わせ、実施、ふりかえり、報告 周知
	報告	新型コロナウイルスの影響により認知症カフェの開催はできなかったが、12月に過去の参加者あてにニュースレターを発行し、 認知症に関する情報提供を行った。3月には感染症対策を講じて少人数(6人)で開催した。	2回	① ② 開催準備、打ち合わせ、実施、ふりかえり、報告 周知
認知症サポーター養成講座 主催・共催	計画	ニーズがあると思われる地域の団体等に講座開催の働きかけを行っていく。開催に至らない場合も、情報発信、啓発、連携の強化等を目指す。	2回 30人 （延べ）	←→ ←→ ① ②
	報告	①富士小学校3年生 ②伊藤園(企業内会議室にて) ③④地域住民向け（地域の薬局と共催）：オンラインで実施。自宅内で受けられ、家族で学べると好評だった。	4回 143人 （延べ）	① ② ③ ④
認知症初期集中支援推進事業 実施	計画	事業の構成メンバーとして、対象者の把握から初期集中支援の実施を通し、適切な支援につなげる。	1ケース以上	←→ ①
	報告	認知症の臨床診断を受けてない方に対し初期集中支援の対象者選定のケース報告を行った。本人の状況やこれまでの経緯等を踏まえ、初期集中支援推進事業ではなく、東京都が実施するアウトリーチチーム事業につなげた。	0ケース	
介護者サロン（ほのぼのの集い） 共催	計画	在宅介護をされている方や経験者が交流を持ち、体験や思いを分かち合い、相互の支え合いを支援するためのサロンとして、毎月第二土曜日に開催する。	12回 100人 （延べ）	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫
	報告	介護されている方や経験者が交流を持ち、体験や思いを分かち合い、相互の支え合いを支援するためのサロンを開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止の期間があったが、参加者からの強い要望もあり、十分な感染防止対策を行い開催した。	3回 29名 （延べ）	① ② ③
認知症の普及・啓発活動 実施	計画	ボランティアフェスティバルにて認知症カフェや認知症サポーター養成講座に関する普及啓発、地域包括支援センターのＰＲを行う。	1回	←→ ①
	報告	ボランティアフェスティバルが新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	0回	

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月） 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
	報告			
	報告			

令和　2　年度［　　やなか　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　社会福祉法人　台東区社会福祉事業団　】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	地域包括支援センターの役割をわかりやすく啓発し、地域住民が気軽に相談できるようにする
②	総合相談支援業務	地域の高齢者の見守り機能を強化するために、民生委員との連携を強化する
③	認知症総合支援事業	認知症についての正しい知識の普及啓発や、若年性認知症に関する支援の実態把握

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	高齢者実態把握の強化	計画	100人	行政情報などが届きにくい高齢者の多いマンションを訪問し、広報誌の配布、管理人との顔の見える関係作りを行う。また、85歳以上で一人暮らしの高齢者の実態把握を行い、地域包括支援センターの役割を啓発し、状態が複雑化する前の介入を目指す。
		報告	111人	約２４ヵ所のマンション管理人へ広報誌の配布を実施した。８５歳以上で介護保険サービスの利用がない高齢者宅を訪問し、熱中症対策を兼ねて包括の役割について啓発を行った。
②	民生委員との連携強化	計画	年2回	民生委員へ年２回（夏は熱中症対策・冬はインフルエンザ等の予防啓発）の連絡を継続する。この他に、民生委員と包括職員が交流できる機会を増やしていく。特に後任の民生委員がいないエリアについては高齢者の情報共有を強化していく。
		報告	年2回	随時、相談を受けることに加えて、包括職員で担当を決め、年2回定期的に全ての民生委員と電話で連絡を取ることで、日頃の連携が強化された。一方、対面での交流については新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。
③	認知症（若年性を含む）に関する普及啓発の実施	計画	―	若年性認知症に関する支援実態を把握し、認知症関連の事業や取組について住民や医療機関・介護事業所に情報提供や普及啓発を行う。
		報告	―	各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員で分担し、区内ケアマネジャーに若年性認知症対応についてのアンケートやインタビューを実施。小冊子にまとめて居宅支援事業所に送付した。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40				○			○		13	○	○
2	常	40					○		○		2	○	○
3	常	40	○						○		5	○	○
4	常	40		○	○		○		○		4	○	○
5	非	32					○		○		3		○

その他の資格・・・

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40				○			○		14	○	○
2	常	40					○		○		3	○	○
3	常	40	○						○		6	○	○
4	常	40		○	○		○		○		5	○	○
5	非	32					○		○		4		○

その他の資格・・・

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　4,213人　（令和2年1月1日時点）　　やなか　地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	高齢者本人や家族などの支援者が、専門職と共に本人の生活習慣等について振り返り、今後の新しい取り組みを検討する機会として活用する。	3回	準備・開催		①			②			③			
				モニタリング・評価					①			②			③
主催	報告	①精神疾患の疑いがある一人暮らしの高齢者の支援について ②緊急時の対応が出来るキーパーソンのいない一人暮らしの高齢者の支援について	2回	準備・開催							①	②			
				モニタリング・評価								①			②
見守りネットワーク地区連絡会	計画	関係機関との情報交換や事例検討、グループワークを通して、地域課題に関する意見交換を行う。	2回	準備・開催		①						②			
				報告			①						②		
主催	報告	新型コロナウイルスの影響により、書面開催で情報を共有し、消防や浴場組合等、関係協力機関から地域の高齢者に向けたメッセージを冊子にまとめ配布した。	1回（80部）											①	書面開催
広報誌の発行・ホームページの活用	計画	熱中症やインフルエンザ、詐欺等に関する情報を毎月のテーマに沿って広報誌を作成し、回覧等で配布する。また、法人のホームページを活用した情報発信を行う。	12回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主催	報告	新型コロナウイルスの影響により回覧板が中止となることがあったが、地域の民生委員や薬局等、関係機関へ広報誌を配布した。	6回（600部）			①		②		③			④	⑤	⑥
地域交流	計画	夏祭り・菊祭りに参加し、地域住民との交流の機会として活動していく。	2回					夏祭り ①		菊祭り ②					
参加	報告	新型コロナウイルスの影響により、夏秋共に祭りは中止となった為、地域住民との交流の機会が減少してしまった。	0回												

＜認知症総合支援事業＞

やなか　地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（カフェやなか）	計画	【土田病院（精神科）】 特養谷中、土田病院、谷中区民館の3か所で開催し、音楽や体操を取り入れながら、それぞれの場所や季節によって開催時間を変える事で、より多くの方に参加して頂けるよう工夫していく。	6回 120人（延べ）	①		②		③		④		⑤		⑥	
共催	報告	新型コロナウイルスの影響により、定期開催ができなかった為クイズや運動を盛り込んだ新聞を作成した。参加者や関係者に発送し、電話等で状況確認を行った。10月には、感染対策を行いながら谷中公民館で参集型のカフェを開催し、1時間を目安にお互いの近況報告などを行った。	1回 3人							①					
認知症サポーター養成講座	計画	地域住民や各種機関・企業等へ認知症サポーター養成講座をはじめとする認知症に関する講座開催の働きかけを行っていく。	4回		①			②			③			④	
主催・共催	報告	新型コロナウイルスの影響により開催を控えたため実施できなかった。	0回												
認知症初期集中支援推進事業	計画	対象者の把握から初期集中支援の実施を通して、各機関と連携しながらスムーズで適切な支援に繋げる。	1ケース以上						①						
実施	報告	事業対象となる案件がなかったため実施できなかった。	未実施												
認知症の実態把握・早期対応	計画	セキュリティが厳しく、高齢者の生活実態の把握が困難な高層マンション等に対して、管理人や管理会社、管理組合へ働きかけを行い実態把握・早期対応を行う。	適宜												
主催	報告	包括職員で、担当エリア内のオートロックマンション等の管理人に広報誌や熱中症注意喚起のチラシを配布し、認知症などが心配される高齢者や家族に対して、地域包括支援センターの役割を周知していただくよう働きかけた。	24ヵ所												

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　3ヵ所　　介護支援専門員数　7人　（令和2年1月1日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	講義と事例検討会を開催する。 事例検討会は、居宅介護支援事務所（隣接区を含む）、予防プランを作成した事業所の専門職をオブザーバーとして参加させる。	4回			①						②			
				7包括合同					③					④	
主催・共催	報告	新型コロナウイルスの影響により、参集型の集いは未実施。「新型コロナ感染症予防対策の現状と課題」についてアンケートを実施し、結果を居宅介護支援事務所に共有した。	1回 89名						①			①	報告		
								アンケート							
	計画														
	報告														

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	報告														
	報告														

令和　2　年度［　　みのわ　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　社会福祉法人　台東区社会福祉事業団　】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	個別相談や連絡が入った時には問題が重度化してしている 地域包括支援センターの普及啓発が不足している
②	一般介護予防事業に関する業務	マンションなどの集合住宅は住民同志の交流が少ない 高齢者が集まることのできる場が少ない
③	総合相談支援業務	高齢者虐待の通報や行方不明高齢者の捜索、安否確認等など緊急時の対応方法や、区の給付事業など受託業務の対応に不安がある

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	高齢者やその家族が地域包括支援センターに相談できる環境づくり	計画	－	高齢者が集まる場所への啓発活動（新たな対象者の把握）や、相談履歴等から選定した８０歳以上で独居高齢者の実態把握。
		報告	149人	新型コロナウイルス感染症の拡大により高齢者が集まる場での普及啓発活動は実施できなかった。80歳以上の独居高齢者への普及啓発活動は、ポスティング等に方法を変更して実施し、必要な支援や関係機関との見守りに繋げた。
②	地域住民が集まることのできる場所づくり	計画	4か所	継続：２　モニタリング、評価、新たな課題への検討 新規：２　検討、実施準備、地域への働きかけ
		報告	2か所	既存のグループに対して新型コロナウィルス感染症対策の助言等を行い、活動の継続支援を行なった。また再開できなかったグループに対して、介護予防に関するＤＶＤを配布し、自宅で介護予防に取り組めるようサポートした。
③	地域包括支援センター相談員の対応力、実践力の向上	計画	－	緊急時の対応方法を担当部署と協力し、すべての職員が統一した対応ができるように包括内研修等を実施する。
		報告	－	虐待に関する相談が増え、48時間以内の事実確認等を、複数の相談員で対応した。新人職員については、個別研修プログラムをもとに本人の習熟度を随時確認し、相談対応力の向上を図った。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○			○			○		9	○	○
2	常	40	○						○		14	○	○
3	常	40					○		○		2	○	○
4	常	40			○		○				4	○	○
5	常	40	○								4	○	○
6	非	32					○		○		3	○	○
7	非	32	○								2	○	○
8	非	24			○						11	○	○
9	非	19					○		○		3		○

その他の資格・・・

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○			○			○		10	○	○
2	常	40	○						○		15	○	○
3	常	40					○		○		3	○	○
4	常	40			○		○				5	○	○
5	常	40	○								5	○	○
6	常	40	○								1	○	○
7	非	32	○								3	○	○
8	非	24			○						12	○	○
9	非	19					○		○		4		○

その他の資格・・・

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　6,683人（令和2年1月1日時点）　　みのわ 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	本人が可能な限り地域で暮らし続けられるように、家族や地域の方々のサポートを得られるような検討・助言を目指す	3回		①			②				③			
					準備・開催										
					モニタリング・評価			①			②				③
主催	報告	①医療や介護サービスの利用を拒んでいる一人暮らしの方への支援について ②法に抵触するような行動がある一人暮らしの方への支援について	2回				①					②			
							開催					開催			
														②	評価
見守りネットワーク地区連絡会	計画	①事業説明、実績報告 ②グループワーク 事例検討　地域課題に関する検討	2回	①						②					
				計画・実施			①		計画・実施			②	次年度計画		
						評価	報告				評価	報告			
主催	報告	新型コロナウイルス感染症の拡大により書面開催とした。「見守りネットワークだより」を作成し見守り関係機関に配布した。 ①水害時の備え②みのわカフェ報告・災害の備え ①②共通：見守り相談対応報告、関係機関からの情報提供	2回（100部×2）				①					②			
							作成・書面開催					作成・書面開催			
広報誌の配布・センターの周知活動	計画	地域包括支援センターをまだ知らない方々への周知を目的として、関係機関、民生委員の他、高齢者が集まる場へ出向き、センターの周知を行う。	3回		①					②				③	
主催	報告	新型コロナウイルス感染症の拡大のため、郵送やポスティング等により配布を行った。 ①②③包括案内・認知症に関するお知らせ・詐欺への注意喚起・介護予防・熱中症注意喚起・高齢者給付サービス・特養申請案内等	3回（800部×3）			①		②				③			
						作成・配布		作成・配布				作成・配布			
	計画														
	報告														

＜認知症総合支援事業＞

みのわ 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（喫茶ＹＯＵ）	計画	【台東病院・あさくさ地域包括支援センター】 地域のボランティアの方々とも連携し、「回想法」や「介護予防体操」・「音楽会」等を取り入れ開催する。あわせて、個別相談コーナーを設け対応する。	12回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
					開催準備、打ち合わせ、実施、ふりかえり、報告										
					周知										
共催	報告	新型コロナウイルスの影響により、大規模での認知症カフェの開催はできなかったが、12月に今までの参加者に対してニュースレターを発行し認知症に関する情報提供を行った。3月には感染症対策を講じて、少人数(10人)で開催した。	2回									①			②
												書面			開催
認知症サポーター養成講座	計画	・学校、事業所、町会、地域など依頼による開催 ・センター主催による開催 ・講座の開催について、地域へ働きかけ ・「見守りサポーター養成講座」も同時に行う。	4回		①			②			③			④	
					計画・開催										
					地域への働きかけ										
主催・共催	報告	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域への積極的な働きかけは実施できなかった。広報たいとうで募集した区民向けにサポーター養成講座を開催した。	1回									①			
												開催			
認知症の普及・啓発活動	計画	・ミニ講座の開催 ・広報誌による啓発活動 ・地域への働きかけ ・「見守りサポーター養成講座」も同時に行う。	4回	①	②				③	④					
				ミニ講座			広報誌での啓発					広報誌での啓発			
					地域への働きかけ										
主催・共催	報告	年3回発行の広報誌に認知症地域支援推進員からのお知らせを掲載し、また「見守りネットワークだより冬号」において「みのわカフェ」の報告を掲載し、書面による啓発活動に努めた。	4回			①		②				③			
												④			
認知症初期集中支援推進事業	計画	認知症の疑いのある方、訪問支援、早期対応し、適切に医療や介護へ繋げる。	1ケース以上						①						
						導入より終結まで、約半年かけ実施									
実施	報告	認知症地域支援推進員を中心として相談を受けたケースについては早期介入対応を行った。区の認知症コーディネーターへ随時ケース相談を行い、初期集中支援事業の対象として判断を仰いだ。	3ケース（相談のみ）												

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　9ヵ所　　介護支援専門員数　29人（令和2年1月1日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	事例検討会・情報交換会・勉強会等を実施し、地域のケアマネジャーの資質の向上につながる活動を目指す	5回		①				②				③		
				7包括合同					④					⑤	
主催・共催	報告	7包括合同で地域の介護支援専門員に対して「新型コロナ感染症予防対策の現状と課題」に関するアンケートを実施し、書面にまとめ報告を行った。（回答：50事業所、89名）	1回						①			①			
									アンケート実施・報告						
	計画														
	報告														

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（みのわカフェ）	報告	東京都認知症介護指導者の協力を得て、認知症の方とその家族が気軽に自分の想いを吐露したり相談できる場として茶話会を実施した。	1回 6人							①					
										開催					
新型コロナ感染症予防注意喚起活動	報告	戸別訪問にてマスクやチラシ等を配布し、新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起を行った。	250件												

令和　2　年度［　　くらまえ　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　　社会福祉法人　東京援護協会　　】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	支援が必要と思われる方に対して十分な支援が行われていないケースがある
②	認知症総合支援事業	認知症に関する相談が増えてきている
③		

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	支援につながっていない高齢者の早期発見・早期対応	計画	300名	見守り名簿や民生委員との連携から、支援につながっていない心配な高齢者を早期に発見し、生活実態を把握する。 新規ケースも含め、延べ300名の訪問や連携を目指す。
		報告	260名	年度当初は緊急事態宣言が発出されるなど、積極的な訪問を自粛していたが、熱中症の注意喚起時期から見守り対象者や新規の方について訪問を再開。電話連絡を活用するなど対象者の状態によって柔軟に対応したが、計画した数字には至らなかった。
②	認知症に関する支援体制の強化と地域住民への普及・啓発	計画	10回	認知症普及啓発として、認知症サポーター養成講座や認知症講座を開催する。また、認知症カフェの充実や関係機関との連携を強化し、地域住民に認知症に対する理解を深めていく。
		報告	1回	新型コロナウイルス感染拡大により、地域で活動をしている団体が休止するなど講座を開催する機会がなく、また、認知症サポーター養成講座も包括主催での実施は見送った。認知症カフェは11月に1回のみ実施。その後は緊急事態宣言等により未開催。
③		計画		
		報告		

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○			○		○	○		13	○	○
2	常	40	○			○			○		8	○	○
3	常	40	○								4	○	○
4	常	40	○				○				3	○	○
5	常	40			○		○				4	○	○
6	常	40					○				3		○
7	非	19	○				○	○		○	8		○

その他の資格・・・7　歯科衛生士

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○				○		○		11	○	○
2	常	40	○			○			○		9	○	○
3	常	40	○					○			5	○	○
4	常	40	○				○				4	○	○
5	常	40			○		○				5	○	○
6	非	40					○				4		○

その他の資格・・・

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　7,510人　（令和2年1月1日時点）　くらまえ 地域包括支援センター

項目		内容	人数・数量など	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	地域で課題となっているケースや支援困難ケースについて、地域ケア個別会議を開催し問題の解決を目指す。また、地域・関係機関との連携強化も図っていく。	2回			準備	① 開催			モニタリング・評価 ①			準備	② 開催	
主催	報告	3月に開催を検討していたケースは、本人・家族から同意を得られず、地域住民の参加も難しい環境であったことから開催を見送る。	0回												
見守りネットワーク地区連絡会	計画	75歳以上の生活調査で民生委員と協力しながら地域を訪問。また、グッズを活用し、熱中症予防等の周知も強化していく。	2回		準備	① 開催							準備	② 開催	
主催	報告	コロナ禍のため、計画通りの活動はできなかった。感染対策のため、地区連絡会を書面開催とし、可能な範囲で熱中症対策予防やコロナ感染拡大予防の周知を行った。	1回										準備	書面開催	
出張相談（えがおの集い）	計画	隔月で老人福祉館に赴き出張相談を実施する。合わせて包括の周知や介護や認知症に関すること、区の制度など、様々なテーマの講座を実施する。	6回		①		②		③		④		⑤		⑥
共催	報告	新型コロナウイルスの影響あり、令和2年度は11月と2月のみ実施。参加者も定員を設けて行い包括の周知や高齢者の関心がある施設に関する知識など、有益な情報を提供できた。	2回（22人）								①			②	
広報誌の発行	計画	季節に合わせた話題や台東区の制度、介護保険、介護予防などを取り上げ、地域の方々に向けて配布する。	2回				①							②	
主催	報告	コロナ禍で注意すべき点を盛り込みながら、熱中症の注意喚起や介護予防体操などで作成。見守り訪問や見守りネットワーク地区連絡会（書面開催）でも活用をするなど地域の方に向けて配布を行った。	2回（150部）			① 配布							② 配布		

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　11ヵ所　　介護支援専門員数　28人　（令和2年1月1日時点）

項目		内容	人数・数量など	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	事例検討会、勉強会、交流会などを開催し、地域のケアマネジャーとの連携強化、スキルアップを図る。	4回		① 準備・開催				7包括合同 ③	②				④	
主催・共催	報告	コロナ禍でケアマネジャーの集いが開催できなかった。代わりに介護支援専門員に向けて「新型コロナ感染症予防対策の現状と課題」のアンケート調査を実施。結果をまとめ、行政や居宅介護支援事業所へ報告した。	1回（89人）						実施	まとめ		報告			
	計画														
	報告														

＜認知症総合支援事業＞

くらまえ 地域包括支援センター

項目		内容	人数・数量など	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（くらまえカフェ）	計画	【東京トータルライフクリニック】当事者・介護者・予防に関心のある住民等に、認知症に関する知識、社会資源、予防をしていくための様々な情報を提供していく。また、参加者同士の交流や支えあいを図っていく。奇数月は医療機関との共催とする。	12回 240名（延べ）	① 共催	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
共催	報告	医師の講話「認知症を考える」をテーマに行なった。感染予防のため定員制にしたため、今までのような懇談やグループワークの時間は設けられず、近況報告程度となった。人数制限や開催時間の短縮・パーテーションの設置や検温・消毒・換気の徹底に留意し実施した。	1回 15名								① 共催				
認知症についての普及啓発活動	計画	住民・企業・学校等に対し認知症サポーター養成講座を開催する。また、地域のシニアクラブ等の会合を活用し、認知症に関する講座や相談会を企画していく。	10回	①	②	③	④		⑤	⑥	⑦	⑧		⑨	⑩
主催	報告	包括独自で行う認知症サポーター養成講座は感染予防の観点から実施ができなかった。また、令和3年3月13日（土）に予定していた区主催の認知症サポーター養成講座は緊急事態宣言延長に伴い、中止となった。	0回												
認知症高齢者早期発見・実態把握	計画	認知症高齢者の早期発見のため、民生委員・町会・集合住宅の管理人・関係機関等と連携し、認知症の疑いがある高齢者の実態把握に努める。また、必要に応じ個別支援を開始する。	通年	通年（4月～3月）											
主催	報告	コロナ禍で認知症状が悪化したとの相談が多くあった。実態把握に努め、医療に結び付いていないケースについては、受診に繋げるところから支援し、サービスに結び付けた。関係機関や介護支援専門員からの相談で成年後見制度へ結び付けたケースもあった。	通年	通年（4月～3月）											
認知症初期集中支援推進事業	計画	相談や実態把握をしていく中で、初期集中支援の対象と思われるケースについては、早期診断・早期対応に向け支援を行なう。	1ケース以上	通年（4月～3月）					①						
実施	報告	対象ケースに該当せず、選出ができなかった。早期診断・対応が必要となるケースの発見や支援の方法を引き続き検討していく。	0ケース												

＜計画外の取組＞

項目		内容	人数・数量など	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	報告														
	報告														

令和　2　年度［　　まつがや　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　　社会福祉法人　東京援護協会　　】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	関わり合いを持った時点で問題が複雑になっている
②	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	孤立しがちな住民が地域の情報を知ることができない
③	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	高齢者人口の増加に伴い、見守り体制の強化が必要

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	地域包括支援センターを身近に感じられるきっかけづくり	計画	12回	生活全般の相談に乗る「お気軽なんでも相談日」（月1回）を引き続き開催し、元気な方であっても相談できることを認知してもらう。
		報告	随時	コロナ禍での不安に寄り添うため、月1回の開催ではなく随時開催とした。「高齢者でも働く場がないか。」「引っ越ししたばかりで地域がわからない。」等の相談があった。
②	地域包括支援センターの周知活動と地域の実態把握	計画	20棟	見守り機関からの情報・協力を得てマンション等に広報誌の配布や管理人等にＰＲ活動を行う。
		報告	24棟	見守りの相談を受けた方の住むマンション管理人、近隣住民等に、地域包括支援センターの広報誌配布等の配布を行った。
③	自分から発信する力を持った「見守られ上手」な高齢者の増加	計画	8人	６５歳以上の見守り機会の少ない希望者にスタンプカードを配布し、月に１回来所して頂く。【新規】
		報告	4人	新型コロナウイルスの影響により、計画人数には達しなかったが、本人や家族、近所からの相談があった『健康には自信があるが独居で生活に不安を抱いている方』、『集団活動が苦手な方』等に対し、電話や訪問等のアプローチを行い、本人が自ら定期的にセンターに足を運ぶ見守りの体制を整えた。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○			○			○		7	○	○
2	常	40	○		○		○				11	○	○
3	常	40		○						○	13	○	○
4	常	40	○				○		○		4	○	○
5	常	40					○		○	○	10	○	○
6	非	32					○		○		7	○	○
7	非	32	○				○		○		0	○	○

その他の資格・・・３助産師　５幼稚園教諭

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○			○			○		8	○	○
2	常	40	○		○		○				12	○	○
3	常	40		○						○	14	○	○
4	常	40	○				○		○		5	○	○
5	常	40					○		○	○	11	○	○
6	常	40				○			○	○	0	○	○
7	非	32					○		○		8	○	○
8	非	32	○				○				1	○	○

その他の資格・・・３助産師　５幼稚園教諭　６栄養士

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　8,165人　（令和2年1月1日時点）

まつがや 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	効果的な会議となるために本人参加を目指す。今後の生活で活用できる情報やその方の個性を尊重した提案を行う。また、地域における共通課題となりうる問題を発見する。	2回	準備・開催			①				②				
							モニタリング				①				②
主催	報告	新型コロナウイルス感染予防の為本人参加は行わず実施。①開催準備中本人死亡の為中止②認知症の方が地域の力によって住み慣れた地域で暮らす為の情報共有、協力体制づくりを行った。	1回				① 中止								② 開催
見守りネットワーク地区連絡会	計画	関係機関と集合住宅の見守り、独居高齢者の見守り方法、災害等の情報共有や事例紹介を行う。	2回	準備・開催		①					②				
					報告		①					②			
主催	報告	新型コロナウイルス感染症予防の為前期中止、１２月書面開催とした。見守り関係の情報共有と今後の連絡会内容についてアンケートを実施した。	1回		① 中止							② 書面			
出張相談・出前講座	計画	入谷老人福祉館等に出張し、介護や認知症予防に関する情報の提供と必要時には個別相談に応じる。	3回	①	開催			②	開催			③	開催		
主催	報告	新型コロナウイルス感染症予防の為９月より人数制限を行い個別相談や地域住民に成年後見や薬に関する情報提供を行った。民生委員からの依頼で地域包括支援センターの役割についての周知、新任職員の顔合わせを行った。	7回						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
サロン（ホットルーム）	計画	ケアハウス松が谷３階にて地域住民が集まり介護や生活の悩み等を自由に話せる場を作る。	6回	① 準備・開催		②		③		④		⑤		⑥	
主催	報告	新型コロナウイルス感染症予防の為ケアハウスには集まらず、書面で介護予防に関する情報を利用登録者に発信。３月には皆さんがどのように生活されているかコメントを集め寄書きを作成。利用登録者に個別訪問し参加予定者に回覧を行った。	5回	①中止		②書面		③書面		④書面		⑤書面		⑥回覧	

＜認知症総合支援事業＞

まつがや 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（オレンジカフェ）	計画	【永寿総合病院（認知症疾患センター）・たいとう地域包括支援センター】認知症に関する講義や実技を行い、啓発活動や認知症の方やその家族等の支援を行う。	6回		①		②		③		④		⑤		⑥
共催	報告	新型コロナウイルス感染予防の為永寿総合病院でのオレンジカフェは中止。１１月に柳橋分院にて少人数で実施。その後は書面（オレンジカフェ通信）にてオレンジカフェ参加予定者に認知症に関する情報発信を行った。	3回（内通信2回）								①				
											②		③		
認知症サポーター養成講座等の普及啓発事業	計画	認知症サポーター養成講座の開催・認知症ミニ講座の実施・医療、介護、区民等ネットワーク事業にてＰＲする。	2回							①					②
主催・共催	報告	新型コロナウイルス感染予防の為、養成講座、認知症ミニ講座は実施を見合わせた。PR事業については書面にて窓口来所者等に適宜紹介を行った。	適宜												
認知症高齢者の早期発見・実態把握	計画	認知症個別相談の実施・集合住宅との情報共有・医療機関、地域住民と協働で支援を行う。	4回	①			②			③			④		
主催	報告	高齢者が多く住むマンションを訪問。窓口相談・地域住民、民生委員と協働で認知症の方の支援、医療介護へつなぐ支援を行った。	4回				①	②				③			④
認知症初期集中支援推進事業	計画	認知症初期支援チームの普及啓発・実施	1ケース以上							①					
実施	報告	対象者はいなかったが、初期集中支援チームとしての普及啓発活動を随時行った。また、昨年度初期集中の対応を行った方の経過を追い、分析した。	0回												

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　12ヵ所　　介護支援専門員数　　42人　（令和2年1月1日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	台東区で活動するケアマネジャーに対し台東区の情報や社会資源等の活用方法の共有を行う。また同、他職種との交流や事例検討の場とする。	4回		① 準備・開催							②			
							７包括合同		③					④	
主催・共催	報告	７包括合同でケアマネ事業所に対し「新型コロナウイルス感染症予防対策の現状と課題」のアンケートを実施・結果を報告した。また、3月にまつがや包括主催で書面にて開催した。	2回		準備							① 報告		② 準備	書面開催
					７包括合同アンケート										
	計画														
	報告														

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	報告	厚生労働省のマスク配布に合わせ自粛生活中の介護予防のポイントをまとめた書面を作成、介護予防サービスを利用中の方と見守りを行っている方に配布した。	270人												
	報告														

令和　2　年度［　　たいとう　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　　社会福祉法人　聖風会　　】

◇今年度の重点課題

①	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	地域のケアマネジャーに対する支援課題の抽出方法と還元の体制づくり
②	一般介護予防事業に関する業務	介護予防への働き掛けを継続的に行える体制づくり
③	認知症総合支援事業	若年性認知症の方やその家族への支援体制の不足

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	ケアマネジャーへの支援、協働の強化	計画	－	ケアマネジャーのニーズや相談内容を分類し、ケアマネジメント支援における課題や強みを地域住民やケアマネジャーへ還元できるようにする。（地域資源マップなどの可視化できるものの作成）
		報告	－	ケアマネジャーに対する支援内容の分類表を作表し、困難事例の傾向や課題の抽出を行った。今後はケアマネジャーの集いや事例検討会などで活用する予定。
②	介護予防を目的とした「集いの場」の継続的な運営	計画	10回	元浅草地域において、介護予防を目的とした「集いの場」を継続的に運営できるよう、地域の方や関係機関と協力して計画・実施する。
		報告	0回	立ち上げ予定だった集いの場が、コロナ禍により立ち上げ保留となっている。 地域の高齢者の方の「まだ集まる状況にない」との意向もあり今年度の目標としては達成できなかった。
③	若年性認知症の支援体制づくり	計画	－	他包括の認知症地域支援推進員と協働し、若年性認知症の方やその家族への支援体制について検討する。
		報告	－	8月後半に区内のケアマネジャー向けに「若年性認知症」アンケートとインタビューを実施した。集計結果を居宅介護支援事業所へ配布した。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40			○		○				13	○	○
2	常	40	○				○				11	○	○
3	常	40	○			○		○	○		8	○	○
4	常	40	○				○	○	○		5	○	○
5	常	40			○						12	○	○
6	常	40	○				○	○	○		3	○	○
7	常	40			○		○				0	○	○

その他の資格・・・

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常	40	○				○				12	○	○
2	常	40	○			○		○	○		9	○	○
3	常	40	○				○	○	○		6	○	○
4	常	40	○				○	○			4	○	○
5	常	40			○		○				1	○	○
6	常	40					○		○		0	○	○

その他の資格・・・

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　5,709人（令和2年1月1日時点）

たいとう 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	可能な限りご本人及び地域の方にご参加いただき、個別課題と地域課題について共有できる地域ケア会議を開催する。必要に応じて計画外の開催が可能な体制を維持する。	2回	準備・開催		①	モニタリング・評価		①	②			②		
主催	報告	新型コロナウイルス感染不安などにより積極的に開催することが困難であった。次年度は区のガイドラインに基づいた感染対策などを講じ、開催に努めたい。	0回												
見守りネットワーク地区連絡会	計画	事例検討会とネットワークづくりの強化を図る。担当区域内の支え合いマップ作りを継続する。	2回	準備・開催		①	報告 ①					②	②		
主催	報告	新型コロナウイルス感染拡大のため地区連絡会を書面開催とし、「高齢者見守りネットワークだより」を作成した。警察・消防・下谷薬剤師会・台東区在宅療養支援窓口の資料とともに関係機関に配布しネットワークの維持に努めた。	1回									書面開催	①		
出前講座	計画	見守り体制づくりのため地域の高齢者・住民向け情報発収集及びセンター周知活動を継続する。	10回			＊他随時相談対応	①					②			
主催	報告	ケアハウスまつがや（利用者・家族向け20名）にて権利擁護について、たいとう高齢者在宅サービスセンター（職員向け10名）にて認知症ケアパスについて出前講座を行った。その他シニアクラブ関係２箇所（計26名）で地域包括支援センター周知活動を実施した。	2回＋2回				① ②					③	④		
広報誌の発行	計画	区の事業や季節の情報を提供し、包括の活動報告も掲載する。また、訪問時・窓口・関係機関へ配布するなど、高齢者の手に届きやすい方法を検討・実行していく。	4回	①			②			③			④		
主催	報告	コロナ自粛による生活不活発対策・熱中症・給付金詐欺・水害対策・コロナ感染予防・インフルエンザワクチン・ふれあい介護予防教室・紙おむつ給付・インフルエンザ予防・防火防災診断など掲載。	4回（1600部）	①			②			③			④		

＜認知症総合支援事業＞

たいとう 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（オレンジカフェ）	計画	【永寿総合病院（認知症疾患センター）・まつがや地域包括支援センター】各専門分野から講師を招いての情報提供や認知症予防アクティビティを実施。	6回 300名（延べ）		①		②		③		④		⑤		⑥
共催	報告	11月 講師を招き「生きがいのある人は認知症になりにくい」をテーマとして開催。また、カフェ通信を２回発行し、永寿総合病院からコロナ感染症に関するメッセージ・感染症の注意点・認知症予防体操・クイズ問題などの内容で実施した。	1回（19名）2回（各50部）							① ② 通信発行			③ 通信発行		
認知症サポーター養成講座	計画	認知症サポーター養成講座開催時に見守りサポーター養成講座や介護予防講座などが合わせて行える体制を構築する。（認サポ開催は適宜）	3回			①				②				③	
主催・共催	報告	みどり生命（役員対象）に実施。密を避けるなど感染対策を実施した上で行った。	1回					①							
若年性認知症の支援体制の検討	計画	他の包括の認知症地域支援推進員と協働し、若年性認知症の方やその家族への支援体制について検討する。	1回							①					
主催	報告	ケアマネジャーへのアンケートを実施し、「若年性認知症の方の居場所の確保が必要」という意見が多かった。今後、この課題の取組の方向性を検討していく。	1回			アンケート	①		① インタビュー						① 報告
認知症初期集中支援推進事業	計画	支援対象ケースを推進員連絡会または介護予防地域支援課へ１ケース相談をあげ、チームで支援する。	1ケース以上						①						
実施	報告	今年度対象者はなかった。	0ケース												

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　９ヵ所　　介護支援専門員数　２６人（令和２年１月１日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	事例検討会・勉強会・交流会などを開催し、地域のケアマネジャーとの連携強化とスキルアップを図る。	4回	①	準備・開催					②					
主催・共催	報告	新型コロナウイルス感染拡大により集合での開催が難しかった。代替として７包括合同でケアマネジャーに「新型コロナ感染予防対策の現状と課題アンケート」を実施した。	1回				７包括合同		③					④	
ケアマネジャーへの支援	計画	ケアマネジャーからの相談内容を丁寧に毎月分類する。支援における様々な課題や強味などを整理し、次年度に報告できるように取り組む。	1回		相談対応・分類									報告	①
主催	報告	ケアマネジャー支援内容の分類をし作表。次年度の結果報告予定。今後の支援に役立てていく。	1回												

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	報告														
	報告														

令和　2　年度［　　ほうらい　　］地域包括支援センター事業計画書

法人名　【　　社会福祉法人　清峰会　　】

◇今年度の重点課題

①	一般介護予防事業に関する業務	担当地域内に「通いの場」がない
②	介護予防ケアマネジメント業務	総合事業を終了した高齢者が継続的な介護予防活動に繋がっていない
③		

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目　標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	自主グループの立ち上げサポート	計画	1か所	包括主催のセラバンド体操に参加している方を中心とした自主グループの立ち上げをサポートしていく
		報告	0か所	新型コロナウイルスによりセラバンド体操が中止。人が集まることを避けることで自主グループの立ち上げの取り組みができなかった
②	既存の地域資源情報の収集	計画	-	町会や民生委員等と情報交換し、ほうらいエリアで行っている体操をはじめとした地域活動を調査する
		報告	-	町会や民生委員等と一緒に熱中症予防の啓発に個人宅に回ることができたが、新型コロナウイルスにより地域活動が中止され調査ができなかった。
③		計画		
		報告		

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1　包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
※2　介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和元年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常		○			○					7	○	○
2	常		○				○	○	○		6	○	○
3	常				○						6	○	○
4	常		○				○		○		1	○	○
5	常		○						○		1	○	○
6	常			○	○		○				2	○	○

その他の資格・・・

令和2年度 No.	常勤（常）・非常勤（非）	週の勤務時間（残業除く）	資格（持っているもの全てに○） 社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士	その他	包括実務経験年数（年）	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
1	常		○			○					8	○	○
2	常		○			○		○	○		7	○	○
3	常				○						7	○	○
4	常		○				○		○		2	○	○
5	常			○	○		○				3	○	○

その他の資格・・・

◇年間計画表

エリア内の高齢者人口：　6,204人（令和2年1月1日時点）　　ほうらい 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	高齢者の個別課題に対して多様な視点から検討するために、各専門職や地域住民が参加できるよう働きかける。	2回	準備・開催		①				②					
				モニタリング・評価					①				②		
主催	報告	新型コロナウイルス感染対策を徹底し、①近隣トラブルのケースと②認知症で行方不明になるケースについて開催した。	2回	準備・開催						①					
				モニタリング・評価							②				
												①			
見守りネットワーク地区連絡会	計画	１回目は昨年度の報告を行う。 ２回目は昨年度作成した資源マップを活用した結果を協力者に発表してもらう。	2回			①6～8月の間に開催			①			②12～2月の間に開催			②
主催	報告	地区連絡会はコロナ流行のため夏季予定分は中止、冬季予定分は書面開催にて実施を行った。事前に見守り関係者から情報収集し、広報誌を作成、送付を行った。	1回										書面開催		①
セラバンド教室	計画	参加者の相互の関係づくりを通して、地域の通いの場になるように支援する。	12回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主催	報告	新型コロナウイルス感染拡大及び緊急事態宣言発出により、一度も開催できなかった。参加者に対しては区内で開催できている介護予防教室を案内した。また、開催場所の確保のため,法人内のスペース以外にも区内地域にある区民事務所や今戸社会教育館の情報収集を行った。	0回												
	計画														
	報告														

＜認知症総合支援事業＞

ほうらい 地域包括支援センター

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ（あさがおカフェ）	計画	【浅草病院】 浅草病院の作業療法士と共同で行う「手作業」のプログラムを通して、認知症の本人や家族が一緒に参加できる場を提供する。また、認知症の当事者に情報が届くよう、広報戦略を見直す。	6回		①		②		③		④		⑤		⑥
共催	報告	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で実施した。会場定員の半分以下の人数で、パーテーションの設置やアルコール消毒等の対策を行い、認知症の本人や家族が安心して過ごせる場づくりを行った。	3回（22名）						①		②				③
認知症サポーター養成講座	計画	地域のキャラバンメイトの積極的な活用を進める。児童館や城北旅館組合など、地域の様々な組織・団体に講座の開催を働きかけ、その後の地域連携の強化につながる取り組みを実施する。	6回			不定期開催									
主催・共催	報告	新型コロナウイルス感染症の流行のため、講座開催は行わなかったが、オンラインでの実施など、感染リスクの低い開催方法について、他の認知症地域支援推進員等と情報共有を行った。	0回												
認知症初期集中支援推進事業	計画	初期集中支援チームの介入が相応しい事例を適切に選定し、1事例の介入を実施する。認知症が疑われるが臨床診断を受けていない等、介入が想定される事例を、推進員とほかの職員の間で積極的に情報共有する。	1ケース以上						①						
実施	報告	家族から相談を受けた事例1ケースについて、検討会議に提出した。検討を行っていく中でご家族の意向もあり、地域の医療機関による訪問診療を活用して支援を行った。また、認知症が疑われる相談事例を包括内で情報共有した。	0ケース												
	計画														
	報告														

＜ケアマネジャー支援＞

エリア内の居宅介護支援事業所数：　3ヵ所　　介護支援専門員数　　6人（令和2年1月1日時点）

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	地域のケアマネジャーの日常業務に活かせる講義や地域の課題や困難事例と事例検討をする。	4回		準備・開催	①						②			
				7包括合同					③					④	
主催・共催	報告	新型コロナウイルスにより包括独自のケアマネジャーの集いは開催できなかった。7包括合同で台東区のケアマネジャーにコロナウイルスに対するアンケートを集計し報告した。	0回	①	アンケート準備・作成									① 報告	
地域連携を進める会	計画	山谷地域で活動しているNPO団体や医療機関と共にネットワークを作る場や研修会を開催する。	3回		①	企画会議	①		②	企画会議	②		③	企画会議	③
共催	報告	オンラインを利用しネットワークを作る場や研修会を開催することができた。	3回		①	企画会議	①		②	企画会議	②		③	企画会議	③

＜計画外の取組＞

項目		内　容	人数・数量など	取組活動の経過（月）4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	報告														
	報告														

令和２年度各地域包括支援センター総括

■あさくさ地域包括支援センター

〇上手くいった点や良かった点

　数年前から地域住民の意識が高まっている「防災」について、町会にアンケートを実施し、結果を取りまとめ情報誌として配付することが出来た。また、認知症サポーター養成講座は地域の支援者と協働し、オンラインで実施したところ、家族で参加できるといった意見もあり好評だった。

〇反省点、改善点

　新型コロナウイルスの影響で高齢者の集まる場が減少し、閉じこもりがちな高齢者が増えたが、感染予防のために、こうした方への働きかけを十分に行なえなかった。また、退院支援の際も事前に本人に会えないため、情報の行き違いがあり、本人状況に合った支援に時間がかかることもあった。こうした状況下でも、適切に情報共有を行えるようなネットワークを形成していく必要性を感じている。

■やなか地域包括支援センター

〇上手くいった点や良かった点

　支援を必要としている高齢者の実態把握が困難なオートロックがある 24 ヵ所のマンション等の管理人に対して、地域包括支援センターの役割を周知するために、広報誌の配布や熱中症予防の注意喚起を行うことが出来た。また書面で見守りネットワーク地区連絡会を開催したことで、新型コロナウイルスの影響で閉じこもりがちな地域の高齢者に対して、消防や浴場組合、民生委員等の関係協力機関からの情報や応援メッセージを集めた冊子を作成することが出来た。

〇反省点・改善点

　令和２年度は、感染拡大を予防する為に、様々な行事が中止となったことで、地域の高齢者の心身機能の低下や介護者の負担の増加などを懸念しながらも、迅速に代替えとなる支援を提供することが出来なかった。令和３年度は、高齢者の実態把握や熱中症予防の啓発、虐待の早期発見、介入等を適切な感染対策を行いながら積極的に取り組んでいきたい。

■みのわ地域包括支援センター

〇上手くいった点や良かった点

参集型での開催はできなかったが、水害や災害時の備えや警察・消防などの関係機関からの情報提供を書面にまとめ、「見守りネットワークだより」として各関係機関に配布し、情報の周知を行なうことができた。また、１０月には新型コロナ感染症対策を講じた上で、少人数制で「みのわカフェ」を単独で開催した。認知症のご本人とそのご家族に集まってもらい、当事者の方の悩みや介護者同士の話、双方が相談できる場を提供することができた。

〇反省点・改善点

新型コロナウイルス感染症拡大のため、窓口相談を控える方が多かった。また、電話による相談を受けた後に居宅への訪問につなげようとすると相談者や対象者が対面を嫌がり、積極的な訪問を行うことが困難な状況があった。感染症の拡大は高齢者本人や家族介護者の生活や経済状況にも影響があり、虐待の相談・通報が例年の倍と増加した。高齢者虐待防止の周知が不足しているため通報までに時間がかかってしまったケースや、再発防止に向けて支援を行なっても、虐待が繰り返され解決されないケースがいくつか見られた。そのため、令和３年度の課題とし取り組んでいく。

■くらまえ地域包括支援センター

〇上手くいった点や良かった点

コロナ禍で予定していた事業の多くを中止とした中、参加者から問合せが多かった認知症カフェを開催することができた。また、見守り訪問は対象者の状態によって電話連絡なども活用。実態把握に努め、複雑な課題を抱えるケースでは医療機関など他機関と連携をしつつ、医療や介護サービスに繋げる部分から支援を行うことができた。

〇反省点、改善点

地域ケア個別会議で開催を予定していたケースが緊急事態宣言の発出や本人・家族の意向により開催を見送ることになるなど、計画着手の遅れがあった。虐待ケースや困難事例においては、相談件数が増えていることから、センター内の情報共有を丁寧に行い、迅速に対応ができる体制を整えていく。

■まつがや地域包括支援センター
〇上手くいった点や良かった点
　窓口での相談や見守り活動において、自粛生活の影響による介護予防に関する相談が多く、以前よりも関心が高まってきていると感じた。必要性や環境を検討し、次年度に「感染予防に注意した上で介護予防に関する情報発信」を行う準備が出来た。

〇反省点、改善点
　感染拡大防止の為、見守りネットワーク連絡会が開催できず集合して顔を合わせる機会が持てなかった。見守りでの小さな気づきなど問題を未然に防ぐための情報共有が減り、連携を深めるためには顔を合わせる事の大切さを改めて感じた一年であった。
　感染予防が続く中で、連絡会の書面開催の方法や既存の型を変更した少人数の集会、ウェブ活用等の検討をしていきたいと考えている。

■たいとう地域包括支援センター
〇上手くいった点や良かった点
　認知症地域支援推進員の活動で行った若年性認知症の方の支援に関するアンケートやケアマネジャーからの相談内容の分類を行ったことで、ケアマネジャーが感じている課題や支援の困難さについて、全てではないが明るみとなり今後の地域包括支援センターの取り組みに繋げることできた。

〇反省点、改善点
　新型コロナウイルス感染のリスクと感染予防対策の狭間で、地域ケア個別会議の開催など積極的に取り組むことができなかった。また中止や資料配布などで代替する事業も多い中、新型コロナウイルス感染症を言い訳とせず、必要なことを効果ある形で取り組むためにどうすべきか、という点についてより積極的に検討すべきだったかもしれない。

■ほうらい地域包括支援センター
〇上手くいった点や良かった点
　新型コロナウイルスにより地域住民や他事業所と顔を合わせる機会が減ってしまったが、オンラインを使った研修や会議に積極的に参加した。また法人でネット環境を導入し率先してオンラインに取り組むことで他事業所との連携を強めることが出来た。

〇反省点・改善点
　新型コロナウイルスにより地域活動が一切中止となってしまい自主グループの立ち上げの支援活動が全くできなかった。今後は地域住民と顔を合わせる機会が持てるように、感染対策をしっかり行い積極的に通いの場づくりを行っていきたい。